

FM ちゃお収録記録（センター「つどい」 月報より）

●2020（令和2）年度

No.	収録日	収集内容
1	4月放送	<p>曙川小学校 山野 元気先生に出演依頼を行う予定であった。 【収録延期】 ※6月に収録したが、新福は都合により欠席。</p>
2	7月14日	<p>株式会社関西クラウン工業社 温川政佳氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「クラウン」は王冠の意味で、創業時は王冠やキャップを造る会社だったが需要が落ち込み、ボルト・ナットを締めるソケットレンチなど冷間加工での工具類を提供してきた。海外の工場から安価な工具類が出てきたことで製造を変更し、ブラウン管・液晶モニターを吊り下げる吊り下げハンガーを提供して来た。精密機械の部品製造を行う。「どんな相談も、どんな引き合いも必ず回答」をモットーに対応し、近年は特注・別注の製造依頼が主の仕事になっており、生き残りをかけている。アマゾンでの商品を搬送する無人搬送機の部品も提供している。 ・ 3S活動（整理・整頓・清掃のローマ字の頭文字Sから）は、平成11年（1999年）に枚岡合金工具株式会社（古芝氏）・株式会社山田製作所（山田氏）等と共に「大阪リエンジニアリング研究会」を立ち上げ3S活動に取り組む。 ・ ムリ・ムダ・ムラを見つけ不要を整理し、すぐに探し出せるように整頓を行い、箒で掃く「掃き清掃」からピカピカに拭く「拭き掃除」まで行いながら、改善を図って来た。 ・ この3S活動が、品質管理のISO9001の外部認証取得や環境マネジメントシステム「KES」の外部認証取得につながり、環境活動へもつながる。 ・ 「KES」の外部認証取得を契機に、認証を降ろす協働機関として「O-KES」を特定非営利活動法人グラウンドワーク八尾が「大阪 KES 環境機構」として大阪府下へのKES外部認証取得の普及と認証審査を行っている。 ・ コロナ禍で、マテック八尾主催の「ロボットコンテスト」はアリオ八尾から八尾商工会議所に会場を変更して、無観客で開催。また奈良高専と八尾市が業務提供をしていることから、小中学校へものづくりについて教えに行くこともある。 ・ リサイクルセンター学習プラザ「めぐる」では、メグリンのロボットを納品し、いちからロボット製造に初めてチャレンジしモーターなど他分野である電気・電子への抵抗がなくなった。 <p>その他にも、人間関係の構築及び修復について、八尾市倫理法人会での講話エピソードやゴルフでの遅刻エピソードなどを通じてお話をされながら、失敗をして責任を負い成長していくこと、死ぬまでチャレンジであることをお話しされた。</p>
3	7月21日	<p>株式会社SORASIA 新井千春氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新井氏は、八尾市出身。18才で起業や経営に興味があり、大阪市内の会社に就職しシェアハウス事業やシェアハウスDIY等に携わり、また京町屋の空き家のリノベーションにも携わった。25才で不動産業を立ち上げる。 ●八尾市内での空き家活用の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 八尾には4年程前に戻ってきた。恩智にある古民家「茶吉庵」のリノベーションを行った。日頃は、リノベーションのうえ、持ち家の価値を見いだせない持ち主と、古民家の価値を理解している若者などをマッチングさせて、空き家を提供している。 ・ 八尾に戻って感じることは、高安山があり自然が近い立地に価値や貴重性を感じていること。京都は京町屋のブランドがあり空き家を活用した需要があるが、八尾の場合は空き家を使いたい方の声が小さい印象がある。それでも八尾では農業をしながら飲食店もしている30代もいる。 ・ 他の空き家活用として、久宝寺の長屋で築100年程になるが、「食堂リプル」としてリノベーションを行った。リプルは「さざ波」という意味。少しずつ浸透・普及・定着してほしい思いからついた名称。地域によっては生活がメインで、観光で古民家を撮影されるのが好まない方もいる。 ●地域活性化の取組み・将来の展望 <ul style="list-style-type: none"> ・ ファミリーロード商店街で開催した「こども商店街」「OTAIYA MARKET」での地域活性化の取組みを紹介。 ・ 「八尾ラボ」をインターネットサイトで立ち上げて、飲食店のオーナーの応援やお店のファンを作る目的で立ち上げた。 ・ 生活をしながら楽しいまちを創りたい思いが新井氏にはある。八尾に帰って、生活している人が資源を使って活かしたまちづくりをしたい。そしてチャレンジしやすい、地域資源を活用して良い空気感を出したい。そのようなイメージが湧くことも含めて高安山の麓にある空き家の模型も作成している。 ・ 将来は、目的なくふらっと行ける場所づくりとして、図書館をつくりたい思いがある。 ・ また自分達世代は、上の世代と下の世代をつなげる役だと思っていて、子ども達につなげて行きたいと思っている。

No.	収録日	収集内容
4	8月21日	<p>リーラボ-Re Lab-代表者 谷拓也氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木を使ったものづくりを通じて、子ども達などに木を知ってもらう「木育」を行っている。 ・ 木育とは北海道で生まれた言葉。同時期に「食育」が生まれていることから同じようなネーミングになっている。 <p>●職歴・活動歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前の職業として「特定非営利活動法人木育フォーラム」の常任理事をされていた。南港にあるATCにて木育のイベントを開催した際に、当番組の事務局で収録に参加している新葉氏と知り合う。兵庫県加古川市や吹田市でも活動をして来た。 ・ SORACIAの新井千春氏と出会い、2回目にお会いした際に2人で食事をした。「独立をしないの?」と聞かれた際に、自分自身が独立を考えていることを見抜かれたと感じた。4回目の食事をした際に、独立するので事務所を探してほしいと新井氏にお願いして、独立を果たす。そこから新井千春氏と共に活動をするようになる(新井氏の会社の社員も兼ねている)。 ・ 新井氏のつながりで、2018年6月にアリオ八尾で行われた「えんとつ町のプペル」光る絵本展 in アリオ八尾で会場設営の設計・部材提供と組立・施工を行ったのが、八尾で活動を始めた頃に携わった初めての市民活動への参画だった。 <p>●旧高安中学校の活用と地域活性化への携わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旧高安中学校での工房活動や校舎の清掃・リノベーションにも携わり、看板などものづくりで協力している。元々は、「みんなの学校」の構想・企画をしていた実行委員長の三輪さんが、地域食堂「おむすびころりん」を運営する小鹿千秋さんに相談され、そのフィールドに合っている場所として旧高安中学校を紹介し、本格的に開催準備が始まり、谷氏は小鹿氏からの声かけで携わる事になった。 <p>●木育活動の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 谷さんは、みんなと一緒に作ることを大切に考えており、人を巻き込んだ参加の仕方を常に意識している。 ・ 木を使って作ることで、子ども達に職人の世界を知ってもらいたいこと、子ども達に「なりたい職業ランキング」で常にものづくりの職業がランクインしてもらえることを目標にしている(公務員・YouTuberが近年は人気の職業になっている)。 ・ ものをつくることから、ものづくりとは何か、木を知ってもらうこと、物を大切にすることを広めて行きたい。 ・ 「木材コーディネーター」として、建築主(施主)と山林の現地で住宅の柱や梁など必要な部材になる木を選ぶこともしている。里山保全・寺社建築も含め、国土の66%が森林である日本は、森林と岩清水の文明・文化として発展し、今日の日本があることも広く知ってほしい考えを持っておられた。 <p>●地産地消・地域循環共生圏での協力(高安山もヒノキ材の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高安山のヒノキ材を、旧高安中学校を活用してビニールハウス内で自然乾燥を実験しており、含水率が9%まで減少に成功した。これは、自然乾燥でも12~13%の含水率であることをさらに低下させていること、加えて機械での急速な乾燥では木材が施工後変形を行う問題も解決する方法として実験をしている。また薄いヒノキ材でも反らなかつた実験結果も得られた。

No.	収録日	収集内容
5	8月21日	<p>にちじょうてき SDGs from YAO 西田遥氏・佐藤未翔氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西田氏は、八尾市の「八尾市 OTS 会議」の「神エイト」のメンバーの1人でもある。 ・ 佐藤氏と共につどい登録団体「青少年組織を育てる八尾センター」のメンバーでもあり、今回有志で「にちじょうてき SDGs from YAO」という勉強会を立ち上げた。 ・ 主には、7月から SDGs とは何かを勉強しながら、生活では結びつきにくい SDGs を、教育や人権・平和など各分野と関連づけて行きながら、生活に落とし込めるように気づいて広げたい思いを持って学んでいる。 ・ 第1回目の勉強会は3人で行い、2030年に持続可能な開発目標17の内、気になる目標から調べ発表した。フードマイレージやプラスチックの分別などが気になった。 ・ 第2回目の勉強会では「日本と気候変動」という映画鑑賞を行った。北海道・長野県での積雪量の減少でスキー場の運営が難しいこと、沖縄県のサンゴ礁の白化現象など、岡山県・東京都の事例も含め全国各地で気候変動が起きている事の証言や実感したお話を鑑賞しながら、意見交換をされた。 ・ 西田氏が始めた機会は、北海道へ旅行に行った際に、観光先のボランティアの学生が SDGs を熱心に話され、帰阪後も話された内容が気になって「SDGs に取り組むことに価値がある！」と思い始められた。土木を学んでいた学生は公務員として就職。札幌市や北九州市は SDGs の取組みが先進的な自治体である。 ・ 佐藤氏は、西田氏から SDGs の言葉や話が耳に残った。食事に関わる仕事をしていて、食卓にあがるまでの食材の流通や地産地消・流通時の二酸化炭素の排出量やエネルギー量など、SDGs を通じてその背景をととても想像することや意識をするようになった。買い物時には、どこからこの食材が来たのか「CO₂ラベル」を見るように意識するようになった。またエシカル・グリーンコンシューマーを意識する様にもなった。 ・ SDGs は、「誰一人取り残さない」「とりこぼしをしないように」が大きなコンセプトになっていることを学びながら、自分たちでどんなことが出来るかを話し合うことに意味を感じている。また興味を持ったことにそれぞれ違う観点から発表するので、気付かされることが多い。 ・ 今後は、SDGs をInstagramで情報発信しながら、子ども達にも SDGs を伝えて行きたいと思っている。エコ実践を日常生活で続けて行くことは、忘れてしまっただけで継続が難しい時もある。継続する動機づけとしても、Instagramで呼びかけていくこと、また繰り返して情報発信をしようと思っている。考えなくても出来る、自然に出来る、習慣化になるようにして行きたい。

No.	収録日	収集内容
6	10月19日	<p>特定非営利活動法人自然環境会議八尾 事務局長 宮川 晃 氏</p> <p>●「菜の花プロジェクト」とは（貴法人の設立の経緯）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1998年に滋賀県愛東町（現在の東近江市）で始まった「菜の花プロジェクト（従来の廃食油の回収し、せっけんやBD燃料としてのリサイクル事業）」が誕生。 ・ 2001年に滋賀県新旭町で開催された「菜の花サミット」の中で、「菜の花プロジェクトネットワーク（2005年度にNPO法人格を取得）」が設立され、「菜の花プロジェクト」が全国に広がりを見せる。 出典：インターネット「特定非営利活動法人菜の花プロジェクトネットワーク」 ・ 天ぷら油や菜の花栽培で絞った菜種油をBD（バイオディーゼル）燃料化における環境負荷の軽減は、以下の特徴がある。 <ul style="list-style-type: none"> ★ 二酸化炭素の削減。 ★ 軽油同様に含有有害物質が少なく、硫黄酸化物（SO_x）がほとんどでない。 ★ 植物性の廃食油を使うので廃棄物のリサイクルになる。 ★ 地域循環型の構築に貢献 出典：インターネット「油藤商事株式会社」 ・ 八尾でもBD燃料化や菜の花プロジェクトに精通されている先生や関係者からご教授いただき「生活環境科学研究所」を立ち上げた。事業化しやすい組織づくりとしてNPO法人化を行い現在の貴法人を2007年度にNPO法人として設立した。 <p>●貴法人の活動内容 主には次の3点の活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 菜の花プロジェクト ・ 廃食油キャンドルづくり ・ 府民共同発電所プロジェクト <p>●環境アニメイティッドやおでの活動や参画のきっかけは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当時、環境アニメイティッドやおが協議会として設立した時に、事務局の環境保全課に相談に行き、「菜の花プロジェクト」の実施に向かって、話を聴いていただき、「いきいき八尾環境フェスティバル」に「生活環境科学研究所」や貴法人として出展して参画したのがきっかけだったと思う。 <p>●現在のBD燃料化の事業は？課題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アルカリ触媒法で、「脂肪酸」と「グリセリン」で構成される菜種油や植物由来の廃食油に「メタノール」を投入することで、触媒（メタノール自身は変化せず脂肪酸やグリセリンの反応に影響を与える）され、「脂肪酸」と「メタノール」が結合しBD燃料になる。 ・ 結合時にエステル化（脂肪酸とメタノールが結合する時に水が発生・分離されること）され、グリセリンが分離される。 ・ BD燃料生成時の課題として、次の課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> ★ 廃食油の不純物や副産物のグリセリンが発生。廃棄処分費用がかかる。 ★ 軽油混合燃料として活用する際に課税対象になる。 ★ 揮発油等の品質の確保に関する法律（品確法）で軽油にBD燃料を混合する割合が5%以下となり消費が進まない。 ・ 現在は廃食油を直接燃料として活用する事業に転換し活動中。 <p>●廃食油キャンドルづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃食油の直接燃料化に事業を転換するにあたり、出会ったのが廃食油を活用したキャンドルであった。 ・ 10年程前に、当時、環境アニメイティッドやお事務局兼「めぐる」のリサイクル体験教室担当だった職員から、リサイクルセンター学習プラザ「めぐる」でのリサイクル体験教室のひとつとして、「廃食油のキャンドルづくり」の依頼があった。 ・ 当時の事務局兼職員の紹介で、大阪市内で「特定非営利活動法人ごみゼロネット大阪」でも先に廃食油でのアロマキャンドルづくりを行っていたので、大阪市立市岡小学校での小学校4年生を対象にした「環境学習」で廃食油でのアロマキャンドルづくりにも参加・協力し、ノウハウを学びにも行った。 ・ 「フェスタ亀井」の地域行事出展や「めぐる」でのリサイクル教室などでも体験を通じてエコを意識できる取り組みとして活動の普及や「菜の花プロジェクト」の普及の

一助となった。

●府民共同発電所プロジェクト

- ・用和小学校区にある「ふじ第二保育園」の屋上に「府民共同発電所」として大阪府の補助金 100 万円と協賛・出資金を 220 万円募って太陽光発電を設置した。
- ・特に協賛・出資金は八尾市民から広く募り多くの方々の協力をいただくことが出来た。
- ・現在、固定価格買取制度の固定価格は当初より下落はしているが、現在でも生産した電力の内、余剰電力を売電することで設置費用を回収・修繕費用を捻出できるように取り組んでいる。

●菜の花プロジェクトと八尾の伝統産業

- ・黒谷等で畑を借りて、菜の花の栽培を行っている。
- ・また青森県で食用出来る菜の花の品種を取り寄せて、現在は食用出来る品種を栽培し、びん詰めした菜種油を提供している。
- ・八尾は 300 年以上前に現在の玉串川や長瀬川の周辺が大和川の付替えにより新田が開発され、河内木綿と菜の花の二毛作（同じ耕地で 1 年の間に季節を分けて 2 種類の異なる作物を作り収穫する）が盛んになり、江戸時代には 100 年に 1 度の飢饉があっても、これらの農業が盛んであったため、飢えをしのごうができた歴史がある。
- ・これは、かつての八尾では環境と経済と社会が共生できた歴史があることを物語っている（環境と経済が対立関係ではない）。
- ・ヨーロッパはオリーブオイルを生にかけて食べるなどの食習慣があるため、オリーブオイルの生産・消費・廃食油活用が進んでいる。日本は菜種油を大量に消費する食習慣がないが、日本版の循環型が出来ればと思っている。

●昨今のコロナ禍の中で見つめ直すこととは

- ・コロナウイルスが広がる中で、人間のエゴ・わがままが環境破壊につながっていることを肝に銘じながら、これからの生活習慣・生き方・稼ぎ方を地産地消などの考え方を取り入れながら循環型社会で環境・経済・社会が共生できる地域循環共生圏のあり方を普及して行く必要があると考えている。
- ・従来、農地の貸出には規制があったが、都市農業振興基本法の成立後、農地バンクなどの制度もあり、従来よりも農地の活用が進みだしたので、今後の菜の花プロジェクトの推進にも拍車がかかると期待している。

No.	収録日	収集内容
7	11月11日	<p>「安中新田会所跡 旧植田家住宅」指定管理者 特定非営利活動法人 HICALI 安藤 亮 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「大和川の付け替え」と「安中新田会所」 <ul style="list-style-type: none"> ・ はじまりは1704年の大和川の付け替えに始まる。 ・ 大和川が堺に付け替えられたことで、旧大和川は現在の玉串川と長瀬川になった。旧大和川の川底部分や河川敷の利活用が進んだ（新田開発）。川砂・川砂利は水はけがよいので、河内木綿や菜の花の栽培に最適であった。 ・ 新田は幕府の管轄で、柏原の「安福寺」が「中心」となって開拓をした。安福寺の「安」と中心の「中」から「安中新田」と呼ばれた。 ・ 幕府から管理する権利を購入したのが植田家であり、管理する場所が会所と呼ばれる。当時の会所は管理するための事務所機能（土地の貸付・年貢の徴収・幕府に年貢を納める）と寄合で集まる現在のコミュニティセンターのような機能があった。 ・ 1711年（正徳元年）の「安中新田分間絵図」には、八尾市指定文化財である旧植田家住宅がある位置に「会所屋敷」と記されており、現在の屋敷が安中新田会所であると証明された。 ● 「安中新田会所跡 旧植田家住宅」の経過・機能・取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所はJR八尾駅南側の植松町にあり、洪川神社の近隣にある。 ・ 2004年（平成16年）に持ち主から八尾市に寄贈された。八尾市の施設として展示機能や防犯カメラ等を改修時に追加したが、主屋は1760年以降に建築された当時の柱は梁など骨組みをそのまま保存・活用し、座敷は明治時代の状態である。「土蔵1」は江戸時代後期に建築された。「土蔵2」は大正時代に建築された。見方を変えると100年ほど前は、土蔵の建築がされていたことに驚く。 ・ 施設は主屋や土蔵・展示室で歴史史料の展示が主な機能ではある。講座や講演会・コンサート・お茶会・食事会・河内木綿体験・昔遊びが企画されている。また、七五三・新年・成人式・ひな祭りの時期に「旧家で記念撮影」を開催している。 ・ この施設の特徴としては、昔の暮らしを体験できるように八尾市指定文化財で火を扱えることは非常に珍しい。 ● 周辺地域の歴史史料の保管活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 植松町の西の端に庄屋屋敷「旧辻田家」があったが2年前に取り壊された。旧辻田家で2万点歴史史料が保管されており、その中から土蔵に保管されていた襖絵（ふすまえ）を八尾市教育委員会文化財課で専門に依頼し2年かけて修復された。襖絵は「源恭義（みなもと やすよし）」で狩野永泰・岡田為恭（ためちか）に師事された。出身は大阪府和泉地方。 ・ 襖の表面は平安時代の「競馬（くらべうま）」という神事が行われている様子の大和絵である。裏面は、水墨画の「岩濤に虎」の絵である。表面は座敷側に裏面は玄関側に行い虎が魔除け代わりに思いもあったと思われる。絵襖は冠婚葬祭等、特別の時のみ襖を取り換えていたようで、日頃は土蔵に保管しており保存状態が良かった。 ・ 「安中新田会所跡 旧植田家住宅」の展示室で12月25日まで期間限定で公開されている。 ● 「河内の古民家めぐりネットワーク」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年前に中河内・南河内の古民家施設管理者等で結成され、昨年は「河内の古民家めぐりスタンプラリー」を開催した。

No.	収録日	収集内容
8	11月11日	<p>茶吉庵プロジェクト 代表 萩原浩司氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「茶吉庵」とは <ul style="list-style-type: none"> ・ 河内木綿 山の根き組の木綿問屋・織元であった茶屋吉兵衛（萩原氏）の邸宅である古民家。 ・ 萩原家は400年前に恩智に移り住み「地域のためにお役に立つ」ことが、お商売上の家訓である。古民家は築約260年以上の建築物であり、「地域のランドマークとして残してほしい」という地域の要望に応え、リノベーション工事を行った。現在は、国の登録有形文化財に指定されている。 ・ フラウドファンディングのファーボや知り合いなど紹介してもらい、新井千春氏や近畿大学寺川ゼミなどなどDIY形式で着手し、2年半前に第一期のリノベーション工事が完了した。 ・ 古民家は「大和棟」と呼ばれ、茅葺きと瓦葺きで屋根を葺（ふ）く工法で、生駒山系を真ん中に府県を跨いだ河内と大和地域に見られる工法。敷地は500～600坪。建坪は250坪。 ・ 現存する古民家を意識して「ほんまもん」にこだわることを軸に「つどい・いこい・つながる」をコンセプトに文化・芸術の拠点化を目指している。 ● 「茶吉庵」での取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一期リノベーション工事後、以下の取り組みを始めた。 ★ 「茶吉寄席」の開催。年4回実施し、天満天神繁盛亭から落語の寄席として認定を受けている。桂福団治師匠にお願いされ、場を温める「前座」・芸を磨く「中とり」・芸を魅せる「とり」の3席を番組提供している。 ★ 大阪フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽四重奏を披露する「やまんねき音楽会」の開催。弦楽四重奏はもとは宮廷音楽であり、古民家空間で宮廷音楽を間近で聴けることが魅力である。 ★ 「茶吉庵陶芸教室」の開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵から将棋盤が出てきたことを機会に、将棋大会を開催した。将棋指しや審判を行う方を探していた。散髪屋さんで将棋大会の話をしたら、隣のビルに将棋指しがいると紹介してもらったのが志紀に居る大石7段であった。 ・ ご縁をつなぐ場になってきた。アーティストの応援や恩智に住もうと思う方が増えることを願っている。 ● 蔵サロン <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々の交流の場として木綿蔵を改装した。 ・ 水曜日はリラクゼーションとクレイセラピーを行う「Kokyu-瑚宮」を開催。 ・ 木曜日は花選びとレッスンや花雑貨を作成するなど、花のある暮らしを提案する「モンディマンシェ」を開催。 ・ 金曜日は「前向きに活動すること・ものごとに向き合うこと・楽しいことを素直に表現できること」を目的に、理学療法士による子どもが安心して休憩できる居場所を提供する「あすとらるほむ」を開催。 ・ 土曜日・日曜日は、河内地域の名産品を生産者のストーリーを添えて販売し、河内の歴史・文化・観光情報など魅力を発信する「河内物語」を開催。 ● 今後のリノベーションの予定・展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ リノベーションは、20年計画で考えていて、古民家の土台の下の床束と礎石がずれてたり、3cm地盤沈下していたり、庭の塀が20度傾いている等々、敷地内の建築物や庭も含めて順番にリノベーションを循環し持続可能にして行く事を考えている。 ● 今後の講座提供によるターゲット拡大【出会いの場を提供】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 茶吉庵文化サロン「月1文化サロン」を来年度に実施する予定。 ・ 40講座を提供し、古民家空間で「手軽に気軽に和気あいあい」をキャッチフレーズにお試しに新しくはじめる機会を提供する。1講座6人程度を定員として、10時～を2講座、13時～を3講座、16時～を2講座の計8講座を1日に開催し、1週間の内水木金の3日を開催。毎月第2週・第3週で行い、毎月合計48講座を展開する（8講座/日×3日/週×2週/月）。 ・ 講座の一例として、ヨガ・ウクレレ・シルバーアクセサリー・筆文字・心理学・仏教講座・お能・和太鼓などなど。講師陣は古民家で講座をやってみたい講師が

		<p>神戸や西宮、堺など遠方からも来られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「月1文化サロン」は、「茶吉庵陶芸教室」が実験的に行い、2名の講座生からスタートした。好評で6名まで参加が増え、2クラス・3クラスと拡大し、月2回（第2土曜日・第4日曜日）と講座数が増え、合同発表会まで発展した。新しいターゲットを拡大することが出来たことで、「月1文化サロン」として40講座まで多様な講座を内容と回数を拡大していく事になった。 ・ 近隣に「南高安コミュニティセンター」でのコミセン講座とは差別化を図ろうと考えている（対象者・講師陣など）。 ● 「地域のためにお役に立ちたい」原点から <ul style="list-style-type: none"> ・ 民設民営で行い、出会いの場として「つどい・いこい・つながる」拠点となってきた。また「ジャパン・アーティスト展」の開催など芸術・文化のアーティストを育成・応援する場にもなって来た。 ・ 登録有形文化財として国も認めてもらい「茶吉庵」をより多くの方に認知してもらい地域のためにお役に立ちたいことを、もっと実現していきたい。 ● 収録後のこぼれ話：「恩智の名の由来」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本書紀に「恩ある地 母木の里」と漢語で書かれた文面がある。これは日本神話であるが神武天皇が海から恩智の「天王の森」に逃げ込んだ時に、「船渡講（ふなとこう）」によって助けられた神武天皇が、天王の森の大木を見て助かった気持ちを「恩ある地 母木の里」と感謝の気持ちを述べた事から、恩地・恩智（現在の恩智）の地名になったそう。「母木の里」は恩智川に架かる「母木橋」に名が残る。元々は恩智神社は「天王の森」にあった。 ・ 「船渡講（ふなとこう）」とは、現在の恩智神社の2000年続くといわれている氏子達と言われている。大東家・安井家・高田家が挙げられる。 ・ 安井家本家には井戸があり、発掘調査で井戸の下に弥生時代の舟が発見された。戦国時代に小田信長によって恩智の地は焼き討ちにあい、戦国時代以前の歴史史料が残っていない。江戸時代も幕府の地・天皇の天領として扱われ、旗本の板倉家がにらみを利かしていた。
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

No.	収録日	収集内容
9	2月19日	<p>阿瀬 慶子 氏（環境アニメイティッドやお運営委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境活動：エコロジー美園小での「こどもエコクラブ」活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 18年前、結婚を機に八尾市に住む。 ・ 子どもが小学校へ入学した11年前に、美園小学校PTA部会の活動である「エコロジー美園小」に参加をしたのが活動のきっかけとなった。 ・ 当初は、エコロジー美園小の「こどもエコクラブ」活動の参加者だった。 ・ 4～5年程前からエコロジー美園小の代表になり、2012年度から行われている中央環状線高架下での「つどい体験会」で菜の花や河内木綿を通じた体験会に携わる。同じ場所で菜の花プロジェクトとして菜の花の栽培を行っていた「特定非営利活動法人自然環境会議八尾」と連携を深め、エコロジー美園小の子どもたちが自然や八尾の伝統農業・産業に遊びを通じて戯れることで子どもたちの主体性を育むため、子どもたちや保護者の体験したいことは何かを考えて実践されている。 ・ 現在は、子ども達が主体的に活動するようになってきており、お借りしている美園小学校内の畑でも菜の花の栽培活動に発展し、連携が強化している。 ●つどいとの関係、つながった経緯 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10年以上前に「環境アニメイティッドやお」が主催する大阪経済法科大学 花岡キャンパスで開催した「いきいき八尾環境フェスティバル」において、つどいの新福と出会った。また、八尾北高校で開催していた「ビオトープ活動体験&野外調理体験」に参加していた時にも新福と出会っており、新福は八尾北高校の先生だと勘違いしていた。 ●地域での防災活動：女性防災士 <ul style="list-style-type: none"> ・ 美園小学校区まちづくり協議会から5名が選出され、防災士の講座やワークショップに参加した。最初は防災について受講する感覚で参加した。 ・ 受講前は避難所に行けばどのような対応をしてもらえるのかという受け手側の発想だったが、受講後は自分達で避難所を運営しないといけないという自助(自立と自律)と自治の考えが芽生えたことが大きな変化だった。 ・ 避難所は力仕事のイメージもあり男性目線になりがちだが、女性特有の避難所生活における被害もあり、自分の身を守ることが水・食べ物・エネルギーの確保以外の意味もあることを十分に学んだ。 ・ 避難所生活における被害は、避難所から離れたトイレへの道中に女性が襲われることや、就寝中に毛布に男性が潜入して女性を襲うなどの事例がある。また、女性目線として授乳するスペースがないことや、避難所である体育館では下着を干すことが出来ないなども報告されている。 ・ 日頃の防災としては、備蓄している食品の賞味期限前や消費期限前に調理し、また新しい備蓄を調達する「ローリングストック」を行っている。また、アルファ化米など備蓄している食品を災害時を想定して調理することで、安心感が芽生えながら備える準備にもつながっている。さらに「パッククッキング」という耐熱ビニール袋に米と水を入れて湯煎でご飯を炊く災害時に出来る調理方法も実践されている。 ●防災とアウトドアの共通点 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャンプを行う際は、野外で調理などを行っている状況を一種の災害時の体験を無意識に行っている。またキャンプや登山の際には服装が重要視され、素材別での重ね着（レイヤー）のコツがあり、コツがわかれば3枚衣服を着用するだけで十分な防寒対策が出来る。 ・ 屋外の自然環境に囲まれたキャンプ生活は、災害時の生活状況に近く、共通点が多い。防災を意識したキャンプ生活を行うと、災害時を想定した生活体験を楽しく実践できる貴重な機会になることに気付かされた。 ・ そのような共通点や分野を超えたつながりを収録に参加した全員で認識することが出来た。

No.	日付	収集内容
10	3月17日	<p>石田 奈津子 氏（個人活動家）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これまでの活動：“企画好き”から「地域と都市をつなぐ」 <ul style="list-style-type: none"> ・実家がお寺（大阪市西区南堀江1丁目）であることから、もっと気軽にお寺に来てもらい、お寺に親んでもらうために、4年前から「お寺カフェ」を週3日開催している。 ・企画することが好きであることから依頼を受け、京都の漬物屋の裏の元仕込み場を利活用として、発酵酒場イベントを企画。元仕込み場の剥き出し感を活用し、漬物の“発酵”とお酒好きが高じて“酒場”をペアリングして「発酵酒場」という名称で好評を得た。 ・長崎県佐世保市では、「おばあちゃんたちと新しいブランド野菜を創ろう！」と題して、売れる軽量野菜づくりを目指して2019年春から和薄荷（わはっか）の栽培を始めた。 ・三重県尾鷲市ではヒノキを活用した「ご当地除菌水（ヒノキスプレー）」のクラウドファンディングや販売促進にも携わっている。尾鷲では、「お母ちゃんのランチバイキング」では60歳以上の尾鷲市に住む女性を中心に、地元で収穫した旬の食材から地元料理を提供している。 ●コロナ禍で考えた、オンラインスナック「スナック奈津子」 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域活性化やまちおこしに取り組む活動先へ移動することができなくなった。地域活性化やまちおこしにつながるが出来ないか考えたのが、オンライン上でスナックを行うことだった。 ・オンラインスナックでは、「地域・人・食をつなげる」を目的に予約制で入店料をPayPayで支払ってもらい、これまで携わったことのある地域から、事前にその地域の特産物をオンライン参加者にご送付し、オンラインで一緒に食べながら、共通の話題で交流を図る。オンラインでは、現地の生産者や地域プレイヤーも参加され、生産品や地域のお話も行った。産地の食材等のPR手段にもなり、オンライン上で参加者と地域の生産者や調理者の方々とのつながりも生まれ、コロナ禍後には現地に赴く機会にもつながる。 ●活動から学ぶこと <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍という大きな世の中の変化に対応する力（企画力と実行力）。 ・変化に対応するにあたっての「こだわりのなさ」（こだわらずに、出来ることで発想・企画し対応する力）。 ・グローバルに全国各地に携わり様々な産地特産や人脈を活用。 ・ITツールの活用（Zoom・youtube・PayPay等） ・地域・人・食の3つをつなげることで、地域活性化・まちおこしを目的にしている点はブレずに実直に行っている点。 ●環境アニメイティッドやおとの協働 <ul style="list-style-type: none"> ・「里山SOS！池の水すべて抜いてみる大作戦 in 八尾」や「ヤオビアの泉」の企画や実施にあたっては、まちづくりをしている方と話をしていた、テレビで池の水を抜き、外来種駆除や池の浄化を行っていることを知り、YouTube動画でオンライン中継を行うことを企画した。 ・エコ活動に関心のない方や、活動に携わったことのない方にYouTube動画やオンライン中継で情報提供し、参加する機会の提供になればと企画・実行された。